

追肥、先刈時期がいぐさ「涼風」の収量、品質に及ぼす影響

「涼風」栽培において、収穫77日前(耕種基準より7日早い)に追肥を開始すること、収穫70日前(耕種基準より10日早い)に先刈を行うことは、120cm以上のいぐさの収量を増加させるが、収穫77日前の追肥により畳表の品質は低下し、105~120cmのいぐさでその傾向は顕著であった。

農業研究センターアグリシステム総合研究所いぐさ研究室(担当者:澤田倫平)

研究のねらい

一部のいぐさ生産者は、「涼風」の増収を目的として、主要な肥培管理である追肥、先刈を耕種基準と比べて早く行う傾向にある。しかしこのことが、品質に及ぼす影響については、明らかになっていない。

そこで、追肥、先刈時期が「涼風」の収量、品質に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 良質畳表の製織に必要な120cm以上のいぐさでは、追肥を収穫77日前に開始すること、先刈を収穫70日前に行うことで、有意に増収した。(図1)
2. 各試験区の畳表を、先枯、元白、品位で評価したところ、収穫77日前追肥開始は収穫70日前追肥開始と比較して、全てにおいて評価が低い傾向にあり、105~120cmのいぐさで、その傾向は顕著であった。一方、先刈時期、先刈高さの影響は、判然としなかった。(図2、一部データ省略)
3. 増収が想定される水準を組み合わせた栽培(収穫77日前追肥開始、収穫70日前先刈、50cm先刈高さ、以下、増収栽培)では、120cm以上のいぐさの100本重が、慣行栽培より軽い傾向にあり、その300本製織長も短い傾向にあるため、増収栽培は慣行栽培と比較して、「涼風」の充実度を低下させると考えられた。(図3、一部データ省略)

普及上の留意点

1. 本試験は、「涼風」の栽培適期(11月中旬移植、翌年6月下旬収穫)に、アグリシステム総合研究所(旧い業研究所)で実施した。表のとおり、肥培管理の3要因×2水準の8区を3反復し、3か年(平成30年産~令和2年産)同じ試験を行い、栽培年度も要因として分散分析を行った。ただし施肥量は、全ての試験区で同量とした。(基肥量:N6kg/10a、追肥量:N38kg/10a)畳表評価試験は、各区のいぐさを常法に従い製織、評価し、同じく分散分析を行った。ただし、加湿は噴霧加湿を行い、いぐさ重量の12%とした。極長茎の100本重、300本製織長は、平成30年産のみの結果である。
2. 平成28~31年度「革新的技術開発・緊急展開事業」(うち地域戦略プロジェクト)で取り組んだ試験研究の成果の一部である。

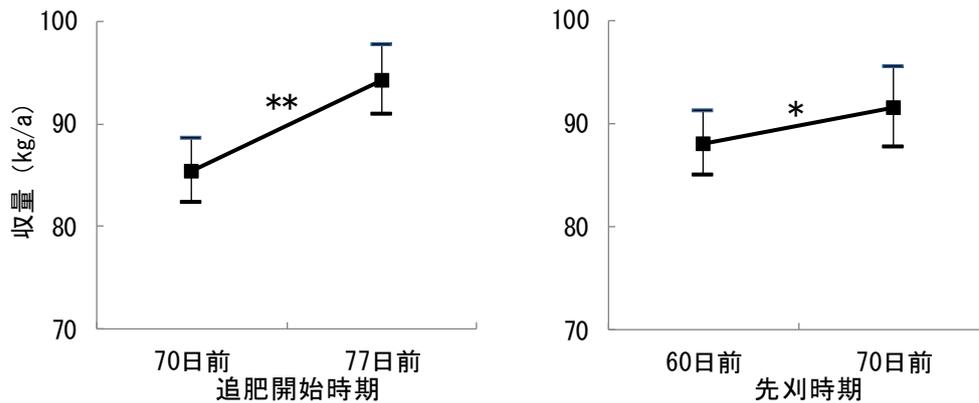


図1 各要因が収量(120cm以上)に及ぼす影響

(注1) バーは、2×標準誤差を示す。

(注2) 分散分析で、**及び*は、それぞれ1%、5%水準で有意差があることを示す。

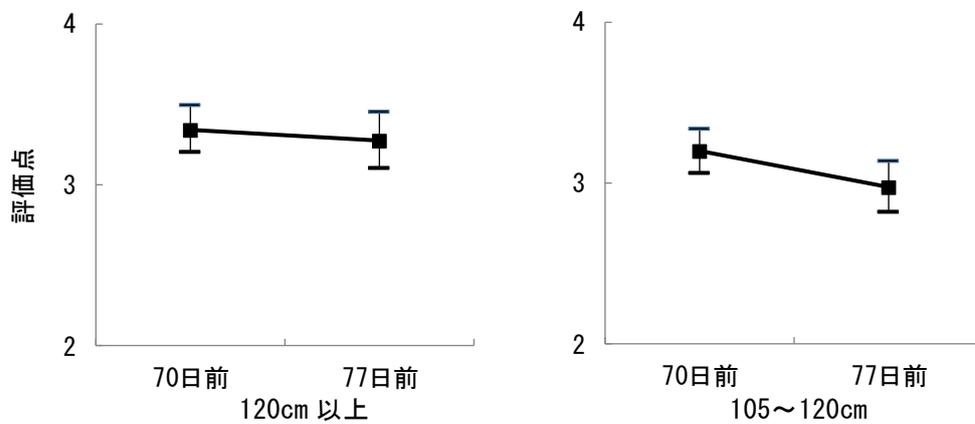


図2 追肥開始時期が畳表の品質(先枯)に及ぼす影響

(注1) 120cm、105~120cm いぐさを製織した畳表を評価した。別途製織した慣行栽培「涼風」を評価点3とし、パネル数8名にて評価。

(注2) バーは、2×標準誤差を示す。

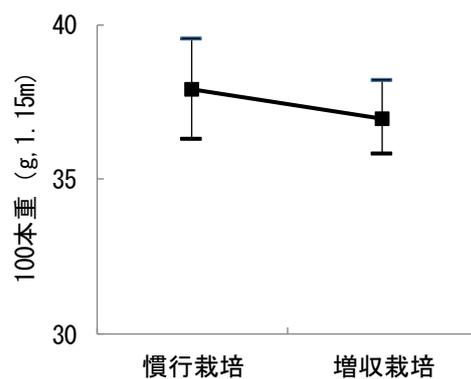


図3 増収栽培が120cm以上いぐさの100本重に及ぼす影響

(注1) 1.15m100本の重量。

(注2) バーは、2×標準誤差を示す。

表 試験区の構成

| 要因 | 水準 | |
|--------|----------------|-------------|
| | ①県耕種基準に従った慣行水準 | ②増収が想定される水準 |
| 追肥開始時期 | 収穫70日前 | 収穫77日前 |
| 先刈時期 | 収穫60日前 | 収穫70日前 |
| 先刈高さ | 40cm | 50cm |